

議事録（要旨）

会 議	第1回英語交流のまちIwakuni創生プロジェクト検討会
開 催 日 時	令和元年10月18日（金）13:30～15:00
開 催 場 所	岩国市役所 31・32会議室
出 席 者	【委 員】 岩野委員（座長）、大岩委員、岡崎委員、藏重委員、ソーレンセン委員、二上委員、波田委員、浜桐委員、松重委員 ※欠席 中邑委員（代理：森脇委員） 【オブザーバー】 竹田委員、佐久間委員 【岩 国 市】 福田市長、重岡教育長、三浦教育政策課長、河村こども支援課長、丸川商工振興課長、穴水観光振興課長、村上広報戦略課長、石井文化振興課長 ※欠席 村上基地政策課長、原田生涯学習課長（代理：高宮班長） 【事 務 局】 英語教育推進室 熊田室長、永木次長 【コンサル（ぎょうせい）】 峰、西澤、高橋
配 布 資 料	資料1 これまでの英語教育・国際交流に関する取組について 資料2 「英語交流のまち基本方針（仮称）」の策定方針について 資料3 アンケート調査概要、調査票（3種類） 参考資料1 現状と課題の整理 参考資料2 要綱設置
議 事	1 開会、事務局あいさつ 2 市長挨拶 ・各分野の方々、また遠方からも検討会にお越しいただいたことを心から感謝する。 ・国際化の進展等により、国際共通語やコミュニケーションの手段としての英語の必要性、重要性が非常に高まっている。岩国市には米軍基地があり、市としては騒音対策など様々な対応をしながら、一方で、基地があることを岩国のまちづくりに活かしていこうとしており、その1つとして英語教育の推進を掲げている。今年度からはさらに内閣府の交付金を活用し、「英語交流のまちiwakuni創生プロジェクト」を展開する。既に、イングリッシュ・キャンプの実施、来週には愛宕スポーツコンプレックスにて「英語交流のまち推進フォーラム」を開催するなど、英語教育のまちづくりが市全体に浸透するような取組みを始めているところである。 ・この検討会は、基本方針を策定し、その施策を計画的に進めることとしている。産学官民、それぞれの専門分野でご活躍の方ばかりなので、忌憚ないご意見を伺い、ぜひ参考にさせていただきたい。これにより岩国の特色である「英語交流の街づくり」を実現し、この岩国を「住みたい・住んでみたい」と思ってもらえるようなまちにしていきたいと考える。どうぞ宜しくお願いしたい。

3 参加者紹介

◆委員自己紹介

【岩野委員】（山口県立大学国際文化学部 教授）イギリスに留学してアメリカのオハイオ州立大学で教鞭をとった後、現職に着任した。多文化教育や国際交流を専門としている。

【大岩根委員】（岩国観光プロモーション戦略協議会 参与）岩国出身で、大学時代に豪華客船の中で働いていた。今は、海外から訪れる多くの大型客船の乗員への英語教育も行っている。

【岡崎委員】（岩国ユネスコ協会 会長）ずっと高等学校で英語を教えてきて、ユネスコでは英語や国際交流、世界平和を中心に活動している。

【藏重委員】（岩国市文化協会、岩国市華道連盟副会長）約8年間、全米・北米を含めたアメリカの池坊事務局長を務めてきた。英語で生け花をという事で、同志社大学や池坊短期大学で教鞭を取った。今は池坊の支部長、京都本部の特別嘱託講師をしている。

【ソーレンセン委員】（山口大学の国際総合科学部 准教授）学習塾・英語の教え方などを専門としている。

【森脇委員（代理）】（岩国幼稚園協会 副会長）本日は、中邑会長の代理で出席した。

【二上委員】（日米協会岩国 副会長）日米協会岩国はボランティアグループで、今年で設立62年になる。基地住民と岩国市民の文化交流を目的に活動している。私自身は米軍基地での7年半を含めて30年間外資系で働いてきた。10年前に岩国に転居し、ここを終の棲家になりたいと思っている。その他、英語と日本語による観光ガイドボランティア、商工会議所の外国人ビジネスサポート関連のアドバイザーもしている。

【波田委員】（岩国商工会議所青年部 副会長）商工会議所青年部では、いよいよ明後日、日米交流をテーマに岩国祭りを開催する。国際交流、日米交流を深める為には、通訳無し、ストレス無しで会話ができることが重要なことになっていると思っている。

【浜桐委員】（岩国短期大学 講師）岩国基地のアメリカンスクールで30年近く教員をしてきた。今は、3年生から5年生が通う岩国エレメンタリースクールで教師をしている。また、ここ数年岩国で増加している幼稚園・保育園に通うアメリカ人の子どもに対応して、保育園などで教えている。

【松重委員】（岩国市PTA連合会長、岩国中学校育友会長）保護者の立場として、皆さんと一緒に英語教育について勉強していきたい。

【竹田委員】（米海兵隊岩国航空基地 行政・連絡調整室）米海兵隊航空基地では、昨年は約230、今年は9月時点で既に約180の交流事業を行っている。その日米間の橋渡し役になる業務をしている。

【佐久間委員】（ベネッセコーポレーション）山口県の営業担当で、小中学校を対象に英語やICTや基礎学力向上の分野で支援している。

4 座長選出

岩野委員が座長に選出された。

5 議題

◆これまでの英語教育・国際交流に関する取組について
（事務局による資料説明）

＜委員との質疑回答＞

【岩野座長】新しい英語教育の取組により子どもが変わることで、親や周囲が変わってきたと目に見えることはあるか。

【事務局】キャンプ後のアンケートで「またやってほしい」との意見があり、また、キャンプに昨年度も今年度も継続して応募する子どもがいるなど、こうしたイベントに参加したいという子どもたちの意欲を肌で感じる。

【藏重委員】イングリッシュ・キャンプは効果がある取組と思うが、こういった施設に泊まっているのか。徳地青少年自然の家は安く利用できるので活用するとよいと思う。

【事務局】今年度は由宇のふれあいパークで1泊、徳地青少年自然の家で2泊3日のキャンプを実施した。

【二上委員】できるだけ多くの子どもが国際交流の取組に参加できるのがよい。例えば、小学生が社会科見学で基地を訪れるなどの機会を作るのはどうだろうか。岩国市の子どもは小学〇年生で必ず全員体験できる、となれば徹底できる。可能であれば提案したい。

【竹田委員】基地の立場からは、今もフレンドシップツアー in Iwakuniなど最大限の努力でやらせてもらっているが、基本的に軍事施設であるため、一定の制限は出てくる。

【藏重委員】岩国は国際交流に関する様々な取組をしていて頑張っていると思った。基地があることを活かし、ぜひ更に広げていってほしい。” My name is ~” と” I am ~” の差など、教科書にはない実践的な英語を生で聴き体験させていきたい。

【ソーレンセン委員】先日、日米の子どもたちが参加するコンサートの練習を見たが、食事の際、日本人は日本人と、アメリカ人はアメリカ人と座っていてコミュニケーションがない。私が通訳をして話はじめたが、私が居ない間にまた各々で固まってしまった。もう少し上手くできればと良いと感じた。

◆「英語交流のまち基本方針（仮称）」の策定方針について

（事務局による資料説明）

＜委員との質疑回答＞

【岩野座長】1年目は「基本方針の策定」が重点で、アンケート調査をとりながら進めていく。2年目は、基本方針に基づき実施する様々な活動を評価しつつ「交流のまち推進センター」の準備をしていく。3年目は、センターが開設し拠点となり、人が集まって様々な交流が行われるというイメージである。

ここで、「英語交流のまちIwakuni」のイメージ、どう進めていくべきか、課題などを、お一人ずつご意見をいただきたい。

【森脇委員（代理）】米軍のお子さんが通園しているが上手くコミュニケーションできない、といった声を幼稚園関係者から聞く。私は個人的には、保護者が日本の文化を学ばせたいと願い日本の幼稚園に預けているのだから、英語を話すばかりでなく、日本語を話すことも大事ではとアドバイスしたが、それでは現場が成り立たず、翻訳機での対応や、通訳の先生を雇用した園もある。

・ALTの先生は教員資格がないが、正しい英語を教えられるのかという意見も聞かれた。

【事務局】平成22年から小学校で英語教育が始まり、先生方から指導法などへの不安の声があったので、研修会を行っている。

【岩野座長】イギリスでも、英語ができない子どもへの対応として最も困ったの

	は幼稚園、小学校だったと聞いている。「英語交流のまちIwakuni」にあたり、幼稚園の現状把握も大事な視点になりそうだ。 【二上委員】私は「英語交流のまちIwakuni」に、老若男女、外国人も地元の人も緊張なく、時には笑顔を見せて、会話をするイメージを持っている。 その実現に向けて、まず、イングリッシュフレンドリーなまちになるべき。例えば、市のホームページの英語サイトは、現在は自動翻訳なので課題が多い。英語を使う人にとって有用な情報だけでも、自動翻訳ではなくきちんとした英語にするのがよい。 ・自分は観光ガイドをしているが、今の錦帯橋周辺の店舗の多くは、ポスターや値段表などに英語表記がない。これではいけないと、5年前に自主的に1軒の店をパイロットにして英語表記化や、トリップアドバイザーでの宣伝などの試みをしたことがある。錦帯橋周辺が英語に違和感がなく、外国人に対しフレンドリーな雰囲気になると望ましいと思う。 ・例えば、子ども達が英語で錦帯橋など岩国の観光スポットを案内する等もよいのではないか。 【波田委員】まず、10年もしくは20年後の「英語交流のまちiwakuni」の共通イメージ、皆が共通して向かっていけるゴールを設定することが、実現に向けての重要な点と考える。 ・現実的には、高齢者にはポケットークで、ミレニアル世代は生まれた時から携帯があるので携帯アプリで、など、世代毎に分析して考えていくことが必要ではないだろうか。 【浜桐委員】日米の交流は相手があることなので、相手の期待も考えることも大切と思う。 ・アメリカ人はまず「したいこと」が先にあり、その目的に応じて自然とコミュニティの場に出る。「中身はとにかく交流したい、日本語を話したい」というのはあまり聞かない。そのため、岩国市の英語のホームページを充実させて情報が簡単に入手できる、英語での質問メールが可能なホットライン窓口がある等、「やりたいこと」にアクセスしやすくなることが大切と思う。アメリカ人と日本人が自然に同じことをするうちに、日本人も英語で話をしたくなっていく、そうした共存のまちになってほしい。 ・「英語交流のまち」の事業により移住まで決断させるとすると、かなり魅力的なものがないと難しい。そこで、全ての学校でイマージョン教育を取り入れるなど、思い切ったチャレンジ、大胆な試みがあっても良いのではないか。いきなり全教科は無理と思うが、例えば、体育や音楽、図工などを英語で教えるなどはありそうだ。 【松重委員】今回のプロジェクトには、まちづくりの視点と英語教育の対象である子どもたちの視点、この2つがある。移住促進も大事だが、子ども達の未来の為には、子どもの視点で物事を考えてあげることも大切と思う。 ・子どもの視点に立つと、英語はあくまでコミュニケーションツールであり目的ではないので、英語学習の先にある価値や楽しさを提供してあげることが大切と思う。英語が通じなかったらどうしようと一歩が踏み出せないこともあるので、国や言語が違って同じ年齢の子どもなのだからと、心の壁を取り払ってあげる仕掛けが必要だろう。音楽やアニメ、スポーツなど世界共通のものを通して、一緒に分かち合うことが有効と思う。英語が話せて違う国に行き、違う自分の価値を見出せば、子ども達の可能性が広がる。 ・まちづくりの点からは、若い世代を移住定住させるためには、英語教育だけで
--	---

	なくて、インフラや働く環境の整備が必要と思う。 【岩野座長】英語交流センターの中身として、例えば、岩国に6か月住んで働けるといった場づくりなども考えられるかもしれない。 【ソーレンセン委員】今、目指している事業内容を見ると、交流とはいっても一方通行の印象がある。双方向の交流になっているか、外国人を利用していないか。外国人は「誰」であるのか、何故、英語だけなのか。基地の中にはアメリカ以外の人もたくさんおり、英語だけではなく、いろいろな言語が聞こえる。そのため、彼らが基地を出て、英語だけでなくスペイン語やいろいろな言語を教えるのはどうだろうか。いま、米軍基地の人は、基地から出る理由があまりないから外に出ない。しかし、何か魅力的なことがあれば出たいと思っているし、そのひとつとして教える場があれば、市民が外国人と出会う機会も増える。そうすると自然に共通語としての英語が必要になってきて、結果的に英語が分かる人が増えるのではないだろうか。 【藏重委員】英語を良い発音で上手く話せるに越したことはないが、子どもたちには、英語教育の前に、英語がツールであることを教えてあげたい。言葉で後ろに下がってしまう子ども達をつくりたくない。言葉が出来なくても、下手でも、辞書を引しながらでもコミュニケーションできる、そして、世界に出ていく子どもたちになってほしい。 ・そのためには、低学年ほど、正しい英語を使える質の高い先生による指導が大事と思う。子どもの耳に正しい英語がスッと入る時期はある。 ・アメリカ人の方が、岩国市民より岩国のことをよく知っている。みんな勉強している。そのため、子ども達も大人ももっと岩国のことを知って、観光やガイドができるようになればよいと思う。 ・基地の方と話していると、基地住民は外に出たい、日本人は中に入りたい。でもなぜ交流したいのかという目的意識が希薄。目的がわからなければ、目的を作ることも大事だと思う。日本人の普通の家に行ってみたいと言っているアメリカ人も多い。 ・基地から出る機会を増やすために、ホームページなど情報を知らせていくべき。基地があることで子ども達に良い出会いがある、誰かと出会う機会が作れる、そういったチャンスを与えてあげたい。 【岡崎委員】今、岩国市は、英語の指導助手である国際交流支援員を各中学校に1名ずつ配置しているが、これは全国的にもあまり例を見ない画期的なこと。また、学校応援組織である「地区協育ネット」も地域連携の素晴らしい事例であり、これからも続けて欲しい。 ・子ども達はもちろんのこと、あらゆる年代の人の、英語を使いたい、もっと学びたい、上達したいというモチベーションに対応して、気軽に学べることも大事と思う。その意味で、英語交流センターの構想が上手く機能するように協力していきたい。 【大岩根委員】英語は使わないと身につかない。大事なことは英語を使うことと、常に英語が目にはいる環境を作ること。例えば、岩国駅には英語の表記があまりない。このプロジェクトで街の中に正しい英語表記によるサインなどを整備するのはどうか。 ・英語を使う環境作りも大切。自分には子どもの頃に基地の人とともに楽しんだ釣りやバーベキューの良い思い出がある。こうした、岩国ならではの英語を使う機会を実現するとよい。 ・政府はインバウンドに力を入れている。外国人観光客はサイトで情報を入手し
--	---

	てくるので、観光情報だけでなく、市民による交流プログラムなどもトリップアドバイザーなどにアップしていくことも効果的と思う。 【佐久間委員】移住の促進のためには、今の岩国市の取組を広くプロモーションしていくことが効果的と思う。英語活用能力や対話力の育成などにまで取り組んでいること、指導法や、先生や生徒の変化などまで具体的に発信できれば、岩国市周辺都市の感度の高い保護者にアピールできると思う。 ・昨今の保護者の教育への関心度は、英語とプログラミングがトップ2。また、イマージョン方式は認知度も注目度もある。 【竹田委員】「英語交流のまち」の姿を具体化し、大きなゴールを作り、それに向かいどんなことをやって行けばよいのかを細分化して、細かなマイルストーンを作る必要がある。 ・私は交流事業に多く携わっているが、日本人の子どもはとてもシャイなので、無理矢理にでも英語を使わなければいけないシチュエーションを作り、使わせる状況を作っていくことが大切と思う。 ・その為には、まずこのプロジェクトを進めていく人が英語に慣れていかないといけない。大人の橋渡し役が増えていけば、子ども達もそれに付随して頑張ってみようとする。自分達が努力している姿を見せることが大切。 ・アメリカ人はやはり「英語を使いたいから日本人と交流しよう」という発想はないので、外国人にとって魅力的なものを作って交流をしていくことが大切と思う。 3 その他 【岩野座長】次の検討会日程を決めたく、手元の日程調整票への記載をお願いしたい。 【事務局】日程は後ほどメールでお知らせする。 (以上)
--	--